

# あいち病害虫情報 最新情報

平成28年 4月15日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## ムギ類赤かび病防除

ムギ類赤かび病の感染予防のための防除適期は、開花期です。天候の推移に留意して、生育状況に応じて適宜防除を進めましょう。

詳細は、本日発表の「ムギ類赤かび病情報第1号」を参照してください。

## 水稻の育苗期防除

普通期栽培のは種作業が始まります。次の点に注意して適正な種子消毒に努めましょう。

- 1 細菌性病害にも効果のあるテクリードCフロアブルなどを用いて、種子消毒を行いましょう。
- 2 浸漬処理法の場合、薬液温度は15～20℃とし、処理濃度と時間を守り、処理後、種子に薬剤を十分に付着させるためによく風乾しましょう。
- 3 温湯種子消毒の場合、適切な処理温度、時間（例：60℃、10分）を守りましょう。
- 4 高温での浸種や長時間催芽は細菌感染を助長するので避けましょう。
- 5 出芽温度は30～32℃を守りましょう。
- 6 種子消毒後の廃液は、適切に処理しましょう。浸漬処理後の廃液処理が困難な場合には、種子粉衣（湿粉衣法）や塗沫法などの消毒方法に切り替えましょう。また、エコホープDJなどの微生物農薬や農薬温湯種子消毒を利用する方法もあります。ただし、微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が10℃以下では効果が劣りますので、処理温度に注意しましょう。
- 7 種子消毒後は病原菌の汚染がないよう管理しましょう。

## ナシ黒星病 多発注意！

ナシ黒星病は、4月上旬の巡回調査の結果、過去10年と比べて2番目に多い発生状況でした。昨年秋の発生量が多いため、越冬菌量も多いと考えられます。また、今後も発生に好適な気象条件が見込まれるため、発生量がさらに増加するおそれがあります。4月14日発表の「平成28年度病害虫発生予察注意報第2号」を参考に防除を徹底しましょう。

## 果樹カメムシ類の多飛来に注意！

今年の果樹カメムシ（チャバネアオカメムシ）の越冬世代成虫量は、ウメ、モモ、ナシで被害がやや多かった平成18、20、24年並みに多い状況です。また、チャバネアオカメムシのフェロモントラップには4月第2半旬までは誘殺はありませんが、山際の民家などではクサギカメムシの越冬世代成虫が確認されています。今後、果樹カメムシ類は、夜温が

上昇すると活動が活発になり、ウメなどへの飛来が増加すると予想されますので、園内の飛来状況に注意し、的確な防除を実施しましょう。

## 落葉果樹の病害虫

長久手市ではナシ赤星病の感染時期に入っています。降雨が予想される場合は、黒星病などとともに防除しましょう。

ナシヒメシンクイの越冬世代成虫のフェロモントラップによる誘殺数と誘殺時期はともにおおむね平年並です。越冬世代成虫は展葉したモモの葉に産卵し、ふ化した幼虫が新梢に食入して芯折れを引き起こしますので、防除適期を逃さないよう防除しましょう。

モモのせん孔細菌病の発生が昨年多かったほ場では、感染を防ぐため薬剤防除を徹底し、春型枝病斑は見つけ次第、取り除きましょう。

## ウイルス媒介虫を施設外に出さないようにしましょう！

トマト黄化葉巻病やキュウリ黄化えそ病の防除対策の基本は、ウイルス媒介虫を施設内に入れない、施設内で増やさない、施設外に出さないの3つです。

収穫期間中はウイルス媒介虫であるタバココナジラミ（トマト黄化葉巻病）やミナミキイロアザミウマ（キュウリ黄化えそ病）の防除を徹底しましょう。なお、次作の感染源を減らすため、収穫終了後は残さを持ち出す前に施設を密閉して、ウイルス媒介虫を死滅させましょう。

- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820